

決算審査特別委員会

第59号議案・平成22年度白石市各会計歳入歳出決算の認定については、定例会2日目(9月6日)の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員(議会議長)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・小川正人、副委員長・山谷清)で、9月8日及び9日の2日間にわたる審査の結果、反対及び賛成の討論ののち、表決の結果、賛成多数で認定しました。審査の中で議論されたおもな点は次のとおりです。

〔質疑〕土木費の繰越明許費

について、3月11日の震災以降、執行できない部分も含まれていると思うが、現在の進行状況を伺いたい。

〔答弁〕土木費の繰越事業については、22年度内に発注した工事もあるが、震災により、23年度になって発注した工事もある。すべて23年度内完成を目指して進んでいる。

なお、一部の舗装改修工事において、震災等の影響があったことから、災害との関係を探らみながら、区域を区分し、工事に取っかかりと準備を進めている。

〔質疑〕スパッシュランドや



決算審査特別委員会現地調査
(スパッシュランド)

ホワイトキューブに、県内で開かれている各種大会を何とか誘致できないか。

〔答弁〕県大会、県内での大会の誘致については、キューブでも要請をしているが、今後も、スパッシュランドも含め、誘致について働きかけていきたい。

〔質疑〕基金現在高が前年度と比べて4億6千79万8千円増加しているが、この千年に1度と言われている東日本大震災時に、現在の基金を活用して単費を持ち出してでも、早期の復旧にこれを充てるといのが本来の考え方ではないのか。

また、予算現額と決算額に余りにも差異があるように感じられるが、どのようなになっているのか。

〔答弁〕基金については、決したため込もうとしているのではなく、常に緊急時に使えるよう考え、余裕のあるときには積み立てをしておくというのが一つの考え方であると思っている。大震災以降、災害復旧のために基金から約4億4千万円取り崩しをして、応急対策に充てて復旧に努めている。

予算現額と決算額の差異は、下水道事業会計の補助金の減集中改革プランによる経費削減、工事等入札による予算の残などによるものである。

〔質疑〕昨年10月からミヤコーバス小原線が市民バス路線になり、便が足りないという声があるが、増便の計画は考えられるのか。

〔答弁〕増便については、地元からの要望は届いていない。それらの状況を見ながら、地元の声を聞きたいと思っている。

〔質疑〕スパッシュランド、白石城並びにキューブの指定管理者委託料の算定はどのようになっているのか。

〔答弁〕財団関係の各施設の指定管理者委託料の算定は、それぞれの施設の収入と支出それらを勘案して、決定している。

〔質疑〕災害時対応品備蓄について、今回の東日本大震災で、この備蓄の大切さ、重要性を行政側としてもかなり痛感されたと思うが、今回の震災ですべて使い切ったのか。また、今回の震災によって、今後、備蓄量を増やす考えはあるのか。

〔答弁〕保存用ビスマケット、

ペットボトルの水については、今回3月11日の大震災の時にすべて使用している。

現在は全国から支援をいただいた、毛布や食料を備蓄している。例えば2千人ぐらいの方々が避難所に避難された場合、1日2食というようなことで想定し、大体3日分ぐらいの食料については、現在備蓄している状況である。

〔質疑〕備蓄品の備蓄場所を1カ所ではなく、指定避難所ごとにしつかり備蓄しておく事が住民の安心につながると思うが、今後どのように考えていくのか。

〔答弁〕毛布類については、これまでは2カ所に備蓄をしていたが、今回の大震災を契機に、各地区公民館、それから各学校、そういったところにも細かく備蓄をしている。ただ、食料品については、管理の問題や、どれだけが必要かなど課題もあることから、従来どおり2カ所ぐらいに備蓄をしている状況である。